

第2回まちネット勉強会記録

日時：9月24日（土） 13時～15時45分

場所：みどりーむ大会議室

テーマ：知っていますか？「横浜空襲」

講師 横浜市史資料室 羽田博昭氏

資料：知っていますか「横浜空襲」、市史通信第22号、参加応募者名簿等

出席者 20名（敬称略）

まちネット緑：池田、片山、黒沢、佐々木、中島、長嶋、樋口、吉開

参加者：石川、岩永、小早川、津久井、村田、永井、田中（喜）、藤崎、三浦

国会議員三谷 タウンニュース谷記者

記録 田中（晃）

*市史通信の写真を利用しました



講演 知っていますか「横浜空襲」

1. 日本本土空襲

戦略爆撃：B29による「都市爆撃」

1944年6月～1945年8月

1945年6月・7月 大都市⇒地方都市

艦載機や小型機（陸上から）による機銃掃射・爆撃

⇒鉄道を含めほぼ無差別 1945年2月頃～

艦砲射撃 ⇒地方都市・工場 1945年7月・8月

被害（死者）東京91144人、広島78150人、長崎73884人・・・（以下略）

爆弾の種類：通常爆弾、焼夷弾、破碎爆弾、ロケット弾、艦砲等々



2. 横浜の空襲 1945年5月29日が最大の被害

横浜における空襲・・・被害が確認できる空襲29回

B29による未差別空襲：18回

艦載機・P51による空襲：11回

参照 「横浜の空襲」— 市史通信第22回

被害概況——罹災面積 約23km² 横浜市全体の約5%

罹災戸数 約10万戸（全体の48.5%）罹災者約40万人（45%）

死者4616人、負傷者14214人 行方不明311人

1945年4月15日 罹災戸数約2万戸、罹災者8万人、死者345人

5月29日 罹災戸数約8万戸、罹災者31万人死者3650人

*「横浜市戦災復興誌」横浜市建設局。1961年より



「横浜の
空襲」—
市史通信
第22号



3. 説明追記

- ・米軍は都市そのものを破壊する意図があり、コース上の横浜川崎にも爆撃した。
- ・特定の建物の区域を目標から外したとの資料は見つかっていない。
- ・伝聞に基づいた資料はそのまま記載され、体験者個人による真実を伝えている。
- ・横浜が原子爆弾の目標の一つになっていた。目標から外れたが、焼き尽くされた。
- ・横浜市史資料室の「市史通信第 22 号」に全体要旨が出ている。

空襲の記録は、警察・消防の記録、市民の記録、米軍の記録、各種文献がある実態体験記が多く発行あり。「横浜の空襲と戦災」「新版大空襲5月29日」等

4. 意見・感想

(当日全員から、また出られなかった方からの戦争記憶を聞き、要約しました)

○戦争を風化させてはならない。

- ・悪天候にも関わらず、申込者のほぼ全員が参加したことは驚き！
- ・参加者の一部は戦争中の記憶を持っており、家族や知り合いの中に戦争につながる体験を持った方も多くいました。

○横浜の空襲

- ・1945年(昭和20年)5月29日の横浜空襲(都市爆撃)で多数の犠牲者が出ました。
- ・5月29日の空襲でおばあさんをなくしたが、警察から死亡通知(紙きれ)が来ただけでした。
- ・横浜空襲にあった人より、女学校の帰りに野毛辺りで倒れている人をよけて家まで帰った話を聞いたことがありました。
- ・横浜も丸焼けになったと母親から聞いていました。両親を始め多くの家族が焼け出されました。家の裏にあった防空壕の話や特に火の粉は、風向きにより延焼を早め、手の施しようがなかったと話してくれました。想像するのも恐ろしかった記憶があります。
- ・母は疎開して戻って来たときには、驚きが、隠せなかったと話していました。
- ・この緑区にも爆撃があったと聞いています。



○東京等各地で経験

- ・昭和20年4月頃の東京、B29が飛来、探照灯で照らすが高射砲届かず、はるか下の方で爆発。その当時埼玉県のと野市に住んでいたため、目に焼き付いています。

○戦争の悲惨さ

- ・戦争の悲惨、悲劇を改めて思い知らされた。初めて聞く横浜空襲で数千人亡くなった悲劇。戦争は、絶対に起こしてはいけないと話していました。
- ・空襲は、「戦意を喪失させるためには何でもやる」という意図のもとに行われた。
- ・戦争の凶暴さの前では、冷静な判断や合理的な思考など、ひとたまりもない(誰にも止められなかったことが、それを表している)。戦争そのものに絶対反対
- ・米軍機の損失もかなり多く、捕虜になるなど知らない秘話があったようだ。(参考：485機(米国戦略爆撃調査団)との報告もある)

○国民への思い

- 横浜には忠霊塔も記念館もないようだ。記録だけではさみしい。心の底に残る悲惨さへの県民の癒しが考えられていない。
- アメリカは日本に比べて、自国の兵士を大切にしようだが、「お国のために死ね！」と人間を使い捨てにした日本とは対照的だ。
- 当時のラジオ放送は、今考えると嘘ばかり。国民を騙し続けた上に軍部は誰も責任を取らずに国民に犠牲を押し付けた。

○都市爆撃の運命

- 横浜市が原子爆弾投下の対象の都市の一つでしたが、対象から外れて5月に横浜空襲となった。広島・長崎の悲劇、他人ごとでは無かったかも知れない！ 小倉市(現北九州市)、運よく天候が悪く被爆から逃れた話は有名です。
- 広島原爆資料館、長崎原爆資料館を見学して、戦争の悲惨さを感じてはいましたけど、横浜でも、原爆こそ落ちなかったけど、爆撃で悲惨な状態であった。

○追記

- 戦争のことは私の世代は申し訳ないくらいわからないことで、軽々しく戦争について口に出すことができません。



タウンニュース2
022. 9. 28
横浜緑区版 1面

戦争については色々な意見があり、根の深い問題であることが分かったので、今後も機会を見てこの様な勉強会を続けたい。

<次回企画> 第3回まちネット緑勉強会

テーマ：横網町公園内 慰霊堂・復興記念館見学会（解説在り）
日時集合：12月8日（木） 中山駅グリーンライン改札口 8：40
両国駅西口、観光案内所土俵前 10：20

定員：10名

募金（寄付）：任意（500円～1000円くらい）

問い合わせ：池田 080-5007-0885 樋口 080-3914-1682

以上